

ハレ大学のグルーベさん本学に留学



を痛め「力になりたい」と、ケーキやサンドイッチを作り、キャンパス内で販売した。

2カ月後の6月、バザーで集まった支援金1050ユーロ(当時のレートで約15万7500円)を在外研究でハレ大学に滞在中の嶋根教授に託して本学に贈り、被災地の一日も早い復興を願った。

グルーベさんは「ハレ大学では、学生や先生方の被災地への関心が非常に高く、作ったケーキ類は完売でした。支援金は専修大学に贈りたいと思いました」と当時を振り返った。

ドイツで募金活動

被災学生を支援

この活動を企画したクリスティン・グルーベさんが、今年4月から大学院文学研究科の特別聴講生として専修大学で学ぶ。

この活動を企画したクリスティン・グルーベさんが、今年4月から大学院文学研究科の特別聴講生として専修大学で学ぶ。

この活動を企画したクリスティン・グルーベさんが、今年4月から大学院文学研究科の特別聴講生として専修大学で学ぶ。

外国語のススメ

LL研究室

—●9●—

英語

岡田 もえ子 商学部教授

今までに San Diego, Newcastle-upon-Tyne, Nottingham, Lancaster, London に滞在した。最初の2つは大学の語学研修、次の2つは大学院修士および博士課程、最後の1つは研究員制度で滞在した。合計8年。

長期滞在した3都市をそれぞれ一言で表すなら、ノッティンガムは森、ランカスターは湖、ロンドンに文学である。ノッティンガムにはシャーウッドの森があり、ロビンフッドが住んでいた榎の木や、ロレンスの小説に出てくる美しい情景が広がる。ランカスターは湖水地方の入り口で、ピーターラビットが駆け回っていたポターの家や、自然を詠んだワーズワースの家など湖畔の穏やかで素朴な景色が素晴らしい。

海外へ出よう！留学のススメ

ロンドンには文学を肌で感じられるブルームズベリー地区がある。大英博物館や大学があり、今でもジョージア朝の街並みが残されている。かつてディケンズ、ウルフ、エリオット、ワイルドなど文豪が集った。漱石も滞在した。

なぜ外国に行くの？ 英語習得や研究のほかにも、たくさん学ぶことがあるからだ。日本で座学も良いが、現地でも直接「体感」することによって初めて理解できることも多い。また、外国人のクラスメートと議論することで世界にはいろいろな考え方がいることが分かる。さまざまな国籍の人が集まっている英国や米国では「沈黙は金」ではない。伝えようとしなければ伝わらない。

英語好きの私が力を試そうと大学1年の夏休みにサンディエゴへ。私の留学の原点だ。

若者よ、海外へ出よう！

※全文はLL研究室ホームページで

来日は最初の高校生目。積極的に人と触れたい。文化に接するの時に数えて3回目に訪れるたびに目を輝かせた。



「伝統文化もサブカルも好き」スウェーデンのアナスタシアさん

アナスタシアさん、本が好きになり写真撮影はロシアのサンクトペテルブルクに生まれ、10代でスウェーデンのルンドに移った。寺院「公園」を任入れましたと「ムライ」など日本の伝言。

国際交流協定校などの学生を対象とする春期日本語・日本事情プログラム

9カ国・地域31人が参加

国際交流協定校などの学生を対象とする春期日本語・日本事情プログラム(4週間コース)が、5月9日から6月7日までカナダのカルガリー1大学生など9カ国・地域、8大学31人が参加して行われた。

短期留学生たちは日本語学習に加え、サントリ武蔵野工場を見学。また、生田キャンパス近くの民家園や小学校などを訪問、さらにホームステイも体験して日本での生活や文化を満喫した。

スウェーデンのルンド大学から参加したアナスタシア・ボグダノヴァさんに日本の印象や夢を聞いた。

グルーベさんは、流ちょうな日本語を話す。3年前に1年間日本に滞在。今回が2回目の留学だ。

「もう一度日本で学びたい」と思っている。日本語を日本人に教える仕事に就くのが夢だ。

12年度長期交換留学生(第2期)

2012年度長期交換留学生(第2期)の派遣留学生に次の8人が決まった。氏名と留学先は以下の通り(敬称略)。

【英語圏】

- ネブラスカ大学リンカ
- オレゴン大学(米国)
- 小山洋明(文4)
- ダブリン大学トリニティカレッジ(アイルランド)
- 本田匡史(経済4)
- マウントアリソン大学(カナダ)
- 夏谷美咲(文3)

【英語圏】

- サスケハナ大学(米国)
- 鈴木駿介(経済4)
- 鎌田由衣(経済3)
- 山口縁(商4)
- 小館奈央(文3)

3月24日から泊3日での新入生歓迎セミナーが、新入生52人と先輩学生11人の参加で、箱根セミナーハウスで実施された。

バスの中で自己紹介、セミナーハウスでは皆の緊張をほぐすアイスブレーキング。夜は「目標を持って大学に来てほしい」に始まった先輩学生の自己紹介で大いに盛り上がり、人それぞれに考えがあり、共通するのは、やらなきゃ始まらない、自分の行動に胸を張って生きようという先輩学生が熱心に、熱く語った。新入生に何かを伝えるために、3月24日は、テーマに沿って、模造紙に必要な事項や絵を書き、発表はグループごとに、寸劇、アクションなどで、遊具の配置の改善から、長い待ち時間を快適に過ごすアイデアを練った。

3日目は、テーマに沿って、模造紙に必要な事項や絵を書き、発表はグループごとに、寸劇、アクションなどで、遊具の配置の改善から、長い待ち時間を快適に過ごすアイデアを練った。

入学前に、62人の仲間作りができ、有意義な時間を過ごせたのは、これからの学生生活に良い影響を与えてくれると思います。来年は、あなたも先輩学生として、参加しませんか。(学生部)

お寺に住むのが夢

「伝統文化もサブカルも好き」スウェーデンのアナスタシアさん

アナスタシアさん、本が好きになり写真撮影はロシアのサンクトペテルブルクに生まれ、10代でスウェーデンのルンドに移った。寺院「公園」を任入れましたと「ムライ」など日本の伝言。

漫画研究同好会

ゲリラ豪雨 (商2)やんぴー

第27回留学生と日本人学生の交流ポリング大会

第9回海外留学・国際交流フェア

第13回留学生日本語スピーチコンテスト

第13回留学生日本語スピーチコンテスト

第13回留学生日本語スピーチコンテスト